

## 自ら生き方を希求する態度を育む進路指導 系統的なキャリア発達を支援する進路指導

### I はじめに

今日、少子高齢化社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等が進む中、就職・進学を問わず、子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化している。また教育を取り巻く環境も大きく変化してきており、これら社会と教育の動向から若者をめぐる様々な課題が浮かび上がっている。一方、若者の勤労観、職業観の未成熟や、社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質・能力の不十分さなどについても各方面から指摘されている。

このような中で、子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人、職業人として自立していくことができるようにする教育の推進が強く求められている。

### II 研究の概要

#### 1 研究のねらい

キャリア教育の意義を明確にし、学校教育活動全体を通して組織的、系統的に取り組んでいくために校長としてどのように関わっていけばよいか研究する。

#### 2 研究計画（2年計画）

一年次：生き方指導を念頭に置いた進路指導やキャリア教育に関して、各校の実態を把握するためのアンケート調査を行い「具体的な取り組み」及び「校長の関わり」を情報交換し、校長の関わりの在り方を研究する。

二年次：一年次の成果と課題を踏まえ、各校の実践的研究を積み重ねる。

#### 3 研究内容

##### （1）研究の方向性と年間計画の検討

##### （2）キャリア教育アンケート調査

- ・学校や児童生徒の現状を把握し、目標を立て、指導計画をつくる。
- ・教育活動を展開し、フォローアップや修正を行う。
- ・取り組みの目的に応じて生徒の変化をとらえる。
- ・導き出された新たな課題を踏まえて生かす。

（「キャリア教育を創る」文部科学省 国立教育政策研究所）

##### （3）各校共通課題を把握

### Ⅲ まとめと課題

#### 1 目標の設定・指導計画作成・指導計画の活用

目標設定がされ、指導計画は作成されているが具体的な内容に反映されていない。また教職員の認識や理解が低く、十分に活用されていない。

○学校、生徒の現状把握をもとに具体的な目標の設定が必要。年間指導計画については系統的な指導が実践できるよう作成する必要がある。

#### 2 教育活動全体を通じた実践・体験的なキャリア教育の実践・家庭や地域社会との連携

すべての学校で実践がなされているが、単発的な実践となっている。家庭や地域との連携・協力はできているが不十分な面もあるようだ。

○教育活動全体を通し相互に関連づけた取り組みを計画的に行い、卒業までに身につけさせたい力を踏まえた体系的な指導を行う必要がある。

#### 3 生徒の成長変容の把握・実践の振り返りと検証・学校評価との関連

体験活動後の変容は把握をしているが、キャリア教育の視点からの考察・分析につながっていない。学校評価では、具体的内容が盛り込まれた評価項目になっていない。

○「身につけさせたい力」を基に、学校の特色や生徒の実態に応じた意識調査により生徒の成長や変容を分析していくことが必要である。学校評価の結果について考察・分析をしていくことが必要である。

#### 4 指導計画の改善・校内研修の充実・校内組織の改善

指導計画の見直しを行っているが、生徒の成長や変容を踏まえた見直し、キャリア教育の目標の検討には至っていない。キャリア教育に関する校内研修は特に実施していない。

○キャリア教育を通じた生徒の成長や変容を踏まえ、目標・指導計画・校内組織の見直しや具体的な取り組みに向けた校内研修を実施していくことが必要である。

今年度1年目として、上記のようなアンケート結果により、東山梨地区の中学校の共通課題が明らかになった。今後これらの課題解決のために、地域や学校の特色、生徒の実態を踏まえてキャリア教育の目指す「基礎的・汎用的能力」の4つの能力を育む「キャリア教育年間指導計画」の作成、校内組織をいかに活用し、校長の考えをどう反映させるか等、校長のキャリア教育推進へのかかわりが大切になってくる。

(部長 長谷川 清)